

木造十一面観音菩薩立像

もくぞうじゅういちめん
かんのんぼさつりゅうぞう

市指定

所在地：味間南



体幹部をヒノキ材の一木から彫った一木造である。左手に水瓶を持ち、腰をわずかに左にひねる優美な姿勢をとる。一部に漆箔の跡が残るものの、全身古色を呈している。頭上面は一面だけが残り、他は欠失している。腹部から脚部にかけての衣文は軽快で浅い彫りが施され、下脚部にはわずかに翻波が見られる。

頭髮部は彫出され、相好穏やかで、全体的に流麗な平安時代後期の菩薩像の特徴を示している。

文保寺大勝院の本尊である。
像高88cm。